

## コーヒーブレイク



# テニスのきっかけ —テニス歴 60 年—

私のテニスを始めるきっかけは、全く偶然というか・ウソから出たまことというか、とにかく異例である。瓢箪からこま、とはこういうことをいうのかも知れない。

私は昭和21年4月旧制中学としては最後の入学で、昭和22年4月から学制改革で6・3・3・4制（小学6年・中学3年・高校3年・大学4年）となり、旧制中学は新制高校に衣替えになった。それに伴い私達は新制高校併設中学2年生となった。臨時経過措置としての併設中学だから、後輩の入学は、制度上、ない。

問題である私のテニスを始めるきっかけは、昭和23年の6月梅雨頃である。

当時、私は大阪府下の村に住んでいて、新制の大阪府立八尾高校併設中学3年生であった。同じ村から同校に同級生数人が通っていたが、その中の二人が庭球部（当時はテニス部とは言わない）に入っていた。梅雨の雨の日、同村の二人の庭球部員と一緒に帰宅すべく放課後に庭球部室を訪れた。雨でテニスはできず部室は大勢の部員でワイワイ賑わっていた。私もその中に加わって同じくワイワイ騒いでいたところ、高校3年で庭球部主将の田中泰三さん（故人になられた）が、私に、「庭球部に入らないか」と言われた。私は冗談の発言だと思ったので、冗談のつもりで「ラケットを持っていないが、ラケットがあれば入る」と返事した。すると、田中主将が「オレのラケットをヤル（与える）から入れ。明日から（コートへ）出てこい」と言われた。

雨が上がってテニスがができるようになった日に、私は半信半疑で庭球部コートに行ったところ、田中主将



会員 播磨 益夫

からラケットを与えられ、即日、ボールボーイを命ぜられた。終日、ボールボーイである。過日のワイワイ騒ぎの雰囲気は全く・全くない。厳しいコートの雰囲気である。冗談・半信半疑の気持ちは「本当の庭球部員になった」という気持ちに直面せざるを得なかった。

これが、私がテニスを始めるきっかけである。なお、テニスは硬式であって、軟式テニスというものがあることは、その時は知らなかった。

その後、知ったことであるが、田中泰三主将は全国高校テニス選手権シングルスで優勝をされ、関学（関西学院大学）に進まれてからも全日本大学テニス選手権シングルスで優勝されている。

併設中学3年・新制高校1年の2年間は、後輩の入学はなく最下級生として、上級生のボールボーイばかりで、夕方になってからヤット打てる状態であったが、何とか「門前の小僧習わぬお経を読む」で、ボールボーイも勉強になった、と現在思っている。

なお、高校3年の時、全国高校団体テニス選手権では、全国2位になった。

このようにしてひよんなきっかけから、テニスに親しんできているが、その後も、45歳になった時点の昭和53年及び昭和54年には45歳以上の毎日テニス選手権シングルスでベスト4に残り、全日本シングルス選手権に出られたこと並びにテニスを通じて60年間にわたり、公私の沢山の人達に知り合えたことは誠に有難いことと感謝している。

おって、現在も、短時間ナイターを含めて年間120日程度はテニスをしている。